



NEWS



島根大学医学部附属病院経営懇談会を開催

会計課



(左から)星総合病院 星 北斗 理事長、兵庫医科大学 太城 力良 理事長



高規格ドクターカー

2021年3月5日(金)島根大学医学部附属病院経営懇談会を開催しました。この会議は、当院の管理運営等に対して外部有識者からの意見を得ることを目的として開催しており、今回の開催で13回目を数えます。一昨年までは毎年1回開催しておりましたが、昨年は新型コロナウイルス感染症の影響で開催を見送っており、今回は感染対策を十分に講じることで、開催することができました。

本会議には、外部有識者としてお招きした、星総合病院 理事長 星北斗氏、兵庫医科大学 理事長 太城力良氏の2名(写真1)と井川幹夫病院長及び副病院長をはじめとする当院関係者16名が出席しました。また、鈴鹿医療科学大学 学長 豊田長康氏には書面にて意見をいただくことができました。

当日は、2021年4月の総合周産期母子医療センターの指定に向けて改修した外来・中央診療棟3階のNICU・GCU、2020年10月より運用を開始している高規格ドクターカー(写真2)等の視察を行った後、懇談会を開催し、2019年度開催の懇談会における提言に対する取り組みのほか、附属病院経営改善、診療体制整備、医療人育成と医師確保および患者サービス・職員福利厚生等の取り組みについて、幅広く活発な意見交換が行われ、多くの提言を頂戴するなど、大変有意義なものとなりました。

今回頂いた意見等も参考にし、地域住民の皆様や医療関係者の方々に、より一層信頼される病院となるよう努めてまいります。

CONTENTS

- ・病院長挨拶
- ・副病院長挨拶
- ・島根大学医学部附属病院経営懇談会を開催





病院長 挨拶

しいな ひろあき
病院長 椎名 浩昭

この度、4月1日より島根大学医学部附属病院長を拝命しました椎名浩昭です。私は1985年に当時の島根医科大学を卒業し直ちに泌尿器科学教室に入局しました。「医師は自らの天職をよく承知していなければならぬ。ひとたびこの職務を選んだ以上、もはや医師は自分自身のものでなく、病める人のものである。もしそれを好まぬなら、他の職業を選ぶがよい」。36年前、このポンペの言葉を胸に刻みつつ医師としての第一歩を踏みだしました。一方、島根医科大学医学部附属病院も、2003年の大学統合と法人化により2004年に国立大学法人島根大学の医学部附属病院として新たな道を歩み出しました。これは、自分たちで明確な目標を掲げ、それに従い病院を運営し収益を得ることを意味します。この時期の病院長、特に小林祥泰元病院長と井川幹夫前病院長は、卓越したリーダーシップの下大胆な経営手腕を発揮され、島根大学医学部附属病院を現在の姿に誘導されました。

「地域医療と先進医療が調和する大学病院」これが当院の基本理念です。先進的な高度な医療を提供すると同時に安全で安心な医療を提供しなければなりません。一方、優秀な医療人を育成し地域へ派遣することも当院の責務です。「材は磨かれて財になる」より多くの人材を育て、磨き、さらには医学部基礎系部門と協力して研究を行い、先進的な医療を創出すること、これも重要です。多様化する附属病院の責務を柔軟かつ確実に遂行するためには多くの力が必要です。納得と共感に基づき、必要であれば随時修正を加えつつ、病院の理念を完遂できるような診療体制を構築する、まさにこれが今求められているのではないかと思います。

今回、従前からの改革担当、経営担当、安全管理担当、職場環境改善・看護の質管理担当の4名の副病院長に加え、新たに研究・教育担当の副病院長を1名追加しました。同時に12名の先生方には病院長補佐として執行部に加わっていただきました。教授職のみならず准教授の先生方、あるいは臨床系だけでなく基礎系の先生方にも参画していただきました。未曾有のコロナ禍で、正確な情報を共有し機能強化の確実性を高め、大学病院の総合力を地域に還元したいと考えております。

当院は島根県医療における最後の砦です。多数派同調バイアスに陥ることなく、附属病院の職員一人ひとりが患者さんのために何ができるかを真摯に考え、それを実践できるように管理運営していく所存でございます。浅学菲才の身ではございますが、皆様方のご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



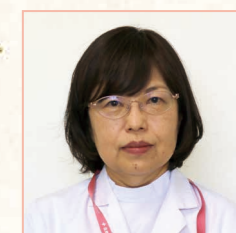
副病院長 挨拶

椎名浩昭病院長の下で引き続き副病院長を担当させていただくことになりました。私は1985年に島根医科大学を卒業し、2008年5月から内科学講座(内科学第四)教授、循環器内科診療科長に就いております。コロナ禍ではありますが、これまで島根県民の皆様、病院職員のご努力により、病院機能に影響する感染蔓延もなく、通常の診療を行うことができましたことに感謝申し上げます。島根大学病院が重視してきました患者満足度の向上、医療安全、高度医療の提供をさらに推進してまいりたいと思います。どうか皆様方のご指導を賜りますようお願い申し上げます。



たなべ かずあき
改革担当 田邊 一明

本年4月より副病院長を拝命いたしました。特定機能病院は高度医療の提供、高度医療技術の開発及び高度医療に関する研修を実施する能力等を備えた病院として承認されておりますが、その承認要件の1つとして「医療安全管理体制の整備」が必須のものとなっております。特定機能病院としての当院をより発展させるため、これまで御担当の副病院長の先生方が、医療安全や感染制御に関して管理され、改善すべき点は透明性をもって改善してこられました。その歩みを止めることなく、微力ながら当院の医療安全に尽力してまいります。どうぞ、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



むらかわ ようこ
安全管理担当 村川 洋子

経営担当副病院長を拝命しました消化器・総合外科の田島です。大学病院は、診療機能の充実と効率化の推進はもとより、これまで以上に地域との密接な連携と信頼関係を構築する事が求められています。また大学病院であっても一般企業と同じく、経営がうまくいかなければその存在意義を発揮することができません。しっかりと病院経営を基盤に、当院のさらなる活性化をめざし、佐倉教授(手術部)、金崎教授(内科学第一)、河村准教授(医療情報部)の補佐をうけながら尽力したいと考えています。今後とも皆様のご理解とご支援を賜れば幸いです。



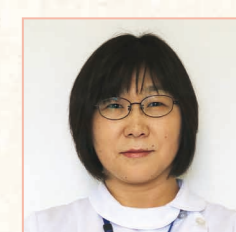
たじま よしつぐ
経営担当 田島 義証

研究・教育担当の副病院長を拝命しました、小児科・竹谷健と申します。大学病院の使命である「地域医療と先進医療が調和する大学病院」を実装するために、脳神経内科・長井教授、薬剤部・直良教授、薬理学・和田教授とともに、基礎分野と臨床分野をさらに融合させて、研究と教育を発展させる体制を作りたいと思っています。そして、研究と教育をやりがいと楽しみを持って行う医療従事者を増やすことで、島根県の各地域だけでなく世界に貢献できる個性輝く大学病院にしていきたいと思っておりますので、ご指導ご協力のほどよろしくお願いいたします。



たけたに たけし
研究・教育担当 竹谷 健

職場環境改善・看護の質管理担当を引き続きさせて頂くことになりました看護部長の田中です。看護部では、「地域に信頼される質の高い看護の提供」の理念のもと、地域包括ケアシステムの実現にむけて、入院から退院後の生活を見据えた在宅療養支援が行えるように多職種連携、外来・病棟間の連携、地域連携を強化していきます。さらに、看護職の労働環境整備による働きやすい職場づくり、職員の生活、キャリア形成に合わせてやりがいと看護の専門性が発揮でき、安全で安心な質の高い看護の提供を行っていきたく思います。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



たなか まなみ
職場環境改善・看護の質管理担当 田中 真美



ご報告



ご報告

総合周産期母子医療センター

NICU・GCUの改修工事完成について

会計課施設管理室

当院では2021年4月からの総合周産期母子医療センター稼働に伴い、2020年10月よりNICU・GCUの改修工事を開始し、2021年2月末に完成の運びとなりました。

今回の整備では、これまでのNICU・GCUに比べ、関連諸室を含めた全体面積を270㎡から320㎡へと約1.2倍となる拡張を行い、NICU12床、GCU6床の整備を行いました。

改修計画にあたっては病院スタッフの意見に基づき、より安全で効率的に診療できるよう配慮し、患者さんのご家族に少しでも柔らかな雰囲気を感じてもらえるように、木目調の内装や家具、間接照明等を取り入れました。また、NICU・GCUに面した廊下部分の壁においては、当院小児科の「一人の子どものために、今できることを。そして将来の幸せのために。」という志にご賛同頂きました方によるクラウドファンディングを用いて、本学総合理工学部の学生がデザインした壁紙を貼るなど、新しい試みにも挑戦しました(写真)。

工事中の診療制限にご協力頂きました患者さんやご家族、クラウドファンディングに賛同して頂いた全国の方々、整備工事に携わって頂きました各業者の方々に、この場を借りてお礼を申し上げます。

裏面あり

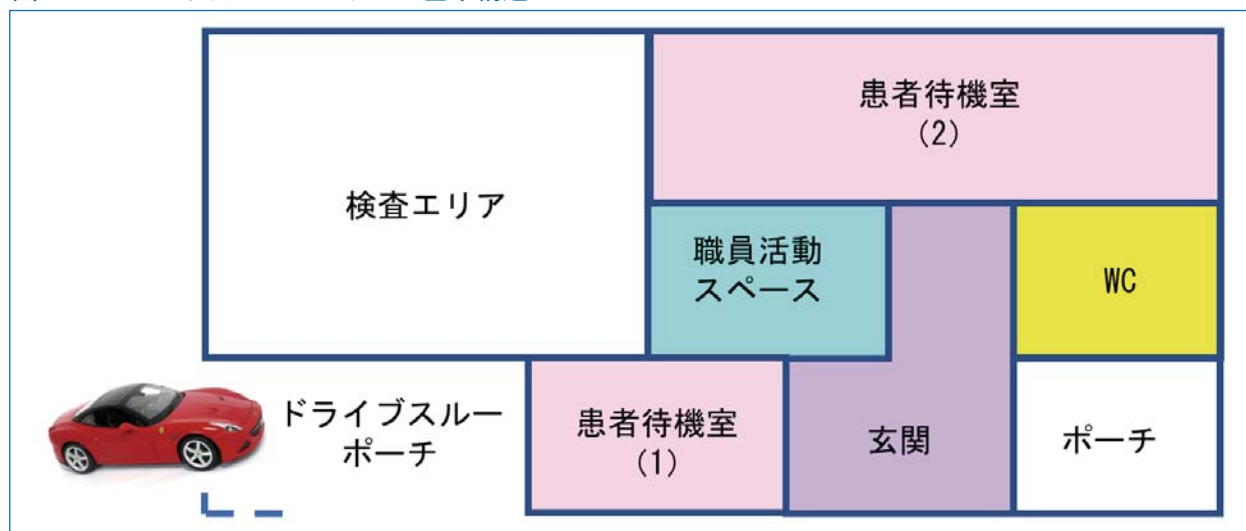
COVID-19トリージセンター設置に向けたWGの活動

COVID-19トリージセンター設置WG 委員長 もりた えいしん 森田 栄伸

2021年1月28日に成立した2020年度第3次補正予算において、国立大学病院における多用途型トリージスペース整備事業が承認されました。この事業は、新型コロナウイルスを含む感染症流行時においても、国立大学附属病院が地域医療における最後の砦として機能・役割を発揮するとともに、大学の教育・研究機能を継続することを目的として整備費が交付されるもので、患者さんを通じた院内感染リスクを回避して検温やPCR検査などを行う施設の整備が求められています。当院では、「COVID-19トリージセンター」の呼称とし、施設管理室を担当課として設置されたワーキンググループ(WG)にて、多用途に対応できる機能的な施設として可能な限り短期間に建設できるよう審議を進めています。感染流行時には、患者からの検体採取とともにドライブスルーによる検体受け渡し機能を有し、事務機能、検査機能を備えた施設として利用できます(図参照)。

設置場所はドライブスルー機能を持つことから患者さん専用駐車場内へ設置とし、今年10月の完成を目指しています。

図 COVID-19トリージセンターの基本構造



廊下・出入口



NICU-GCU出入口の位置は改修前と同じですが、廊下のデザインクロスや池型の掲示板が設置され、明るい雰囲気になりました。



西側廊下は森から始まり、海へと変化します。



総合周産期母子医療センター
NICU・GCUの改修工事完成について

NICU



NICU全体が見渡せる位置に広いカウンターを設け、いつでも患者さんの様子を見守りながら診療します。

GCU



天井の間接照明は、調色機能があり、室内の雰囲気を変える事ができます。

GCUは各ベッドごとに窓を設け、ご家族と気軽に面会ができるようになりました。各窓には様々な動物がデザインされています。

調乳室



調乳室はより効率的に収納や作業ができるよう、スタッフのアイデアが詰まったオリジナル家具を設置しました。

沐浴室



沐浴室は沐浴槽を1台増やし、3人同時に沐浴ができるスペースを確保しました。



島大病院ニュース 2021年4月

ご報告



朝日が昇る前後の風景写真

市民
ギャラリー

増原 公夫さん「明ける頃」を展示しています

いまわか しゅうこ
総務課企画調査係 係長 今若 修子

市民ギャラリー 3月から5月は、増原公夫さんの写真「明ける頃」11点を展示しています。

信じられないかもしれませんが、これらはすべて同じ場所、出雲市稗原町にある増原さんの御自宅から見える風景を撮影したものです。

朝の陽光が山の稜線をくっきりと描き出し、鮮やかに彩られた空。移ろう雲は美しい文様を織りなし、天空を照らす光からは神々しささえ感じられます。

ふだん何気なく眺めている空なのに、天気や時間の変化は、なんと印象の違う自然の美しさを私たちに見せてくれるのでしょうか！

ありふれた日常でも、見方を変えただけで、その一瞬一瞬が尊く、かけがえのない瞬間となる。増原さんの写真は、私たちに、とても大切なことを気づかせてくれます。

増原公夫さんは、中国文教 高等監視管理センターで医学部・病院の施設の安全管理を担当されています。当院の市民ギャラリーに作品を展示されたことについてお話を聞くと、「患者さんに朝日を見ていただくことで、生きる勇気を感じてもらえれば嬉しいです。そして、『日の出の勢い』で、みんなでコロナ禍を吹き飛ばしたい、そんな思いも込めています。」と軽やかに笑っていらっしゃいました。

皆様、ぜひご覧ください。



2021年4月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





お知らせ



島大病院が本気で考えたレシピ100

栄養治療室

この度、「島大病院が本気で考えたレシピ100」を出版いたしました。この本はこれまで作成した「かんたん病院レシピ」と新たに病院食から選んだレシピを加えて作成したものです。

「かんたん病院レシピ」は、患者さんからの「病院食のレシピが知りたい」という一言をきっかけに、病院の管理栄養士や委託給食会社の管理栄養士や調理師などと一緒に考えてレシピを選び、これまで、3冊子、あわせて41種類のレシピを紹介してきました。そしてこの度、新しいレシピを加え、また、これまで紹介したレシピにはアレンジをきかせて、新しい1冊を作成しました。この本では、病院食をそのまま紹介するのではなく、ご家庭でも楽しんでいただけるよう、見た目にもおいしくなるよう工夫をして紹介しています。

食べることは、生きることの基本です。栄養のバランスを考えて食べることは大切ですが、楽しくおいしく食べることも大切なことだと思っています。この本を通して、みなさんが食事に興味を持っていただくとともに、食事を作っている私たちの思いも一緒に感じていただけたらと思います。毎日の食事作りにお役立ていただければ幸いです。

患者さんの声から生まれた取り組みが、様々な方のご協力により、新しい1冊となりましたことを感謝申し上げます。



ご報告

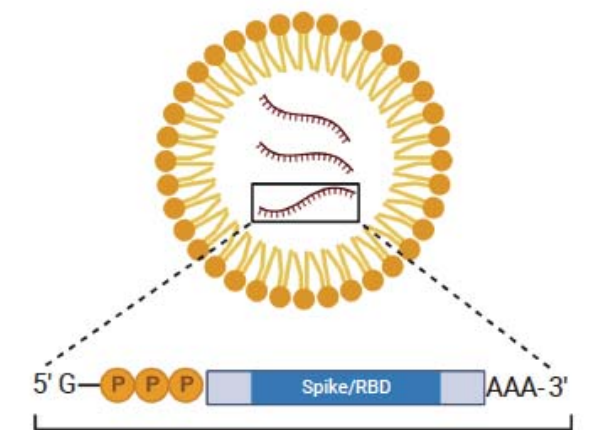


新型コロナウイルスワクチン接種について

感染制御部 ICTリーダー さの ちあき
佐野 千晶

3月より、新型コロナウイルスワクチンの接種を行っています。医療の維持を目的とした本ワクチンの配布趣旨に則り、医療従事者等に該当する当院職員から接種を優先的に開始しています。極めて稀とはいわれていますが、万が一のアナフィラキシーや重篤な副反応に備え適切な対応が出来るよう、COVID-19対策委員会での話し合いならびに部署間連携をはかっています。加えて、当院は、接種後の副反応等に対する専門性の高い対応を求められている医療機関として位置づけされています。このため、コロナウイルスワクチンに関する正確でタイムリーな情報収集や状況把握に努めてまいります。

図. 今回の新型コロナウイルスワクチン 脂質ナノ粒子に内包されたコロナウイルスのmRNA



今回の新型コロナウイルスワクチンは、mRNAといった抗原タンパクの鋳型を用いた設計図ワクチンです(図)。そして、ウイルスの殻の構成成分であるスパイクタンパクが筋肉細胞表面に発現することにより、コロナウイルスに対する獲得免疫を誘導します。このようなタイプのワクチンはこれまでヒトに対して使用されたことはなく、画期的といえます。画期的であるが故に、分からないことも多いのが現状です。一人でも重症者を減らすのに、ワクチンを幅広く適切に活用する必要があります。

これから、少しでも皆様方が安心して暮らしていけるようにコロナウイルスワクチン接種を推進してまいりますので、御協力の程何卒宜しくお願い致します。





ご報告



ご報告



しまね夢こむぎ®プロジェクト ネクストゴールに挑戦!

皮膚科学講座 教授
准教授
特別協力研究員

もりた えいしん
森田 栄伸
ちゆき ゆうこ
千貫 祐子
こうの くにえ
河野 邦江

棚田の近くの保育園の皆さんに麦ふみを手伝っていただきました。

「棚田百選の地を復活させたい!しまね発の低アレルギー化小麦栽培しまね夢こむぎ®プロジェクト」は、お陰様で製粉に必要な色彩選別機購入の目標を達成することができました。多くの皆様に本プロジェクトに関心を寄せていただき、ご支援賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。この度のクラウドファンディングを通じていただいた、ご支援ご協力のお言葉に、プロジェクトのメンバー全員が大変勇気づけられました。

しまね夢こむぎ®の実用化には、収穫から乾燥、粉摺り、選別、製粉を行います。これら行程を繋いで効率的に製粉できるライン化が必要となります。第一目標であった色彩選別機の購入費用 680 万円に、ライン化設備資金 320 万円を加えた合計 1,000 万円の設備資金の確保を、ネクストゴールに設定いたしました。棚田(写真)を含む島根県西部地域にしまね夢こむぎ®の栽培拠点と製粉施設を完備し、同地域を活性化させる本プロジェクトをやり遂げる決意です。

少しでも多くの方に収穫した小麦が届けられるよう、引き続き温かいご支援、応援のほどどうぞよろしくお願いいたします。



詳しくはこちらをチェック!
<https://readyfor.jp/projects/Mugitan>
主催・お問い合わせ先 島根大学医学部皮膚科学講座(担当:河野邦江)
TEL. 0853-20-2210 E-mail. derma@med.shimane-u.ac.jp



うさぎ保育所の卒園式について

総務課

3月19日(金)ゼブラ棟だんだんカンファレンス室にて2020年度うさぎ保育所の卒園式を行いました。保護者の皆様、在園児、職員が拍手で見守る中、少し緊張しながらも堂々と晴れやかな面持ちで9名の卒園児が入場し、厳かに開式しました。

保育証書を受け取った卒園児は、みんなの前で「小学校に行ったらお勉強を頑張ります」、「ドッジボールを頑張ります」など「小学校に行ったら頑張ること」を大きな声で発表した後、保護者の方に「今までありがとうございました」と感謝の気持ちを伝え、保育証書を手渡しました。

はじめは恥ずかしそうにしていた卒園児でしたが、式が始まると大きな声で返事をしたり、楽しそうに歌を唄っていました。卒園児の「お別れの言葉」では1年間の楽しかった思い出を語り、その時の事を思い出したかのようにニコニコ笑顔で話す子ども達。そして在園児は卒園児への感謝の気持ちや、卒園児のようなかつてよくて優しいお兄さん、お姉さんになることを伝えました。

式が終わりに近づくと、小さな赤ちゃんの頃から入所した子ども達とたくさんの思い出が走馬灯のように思い出され、感慨深いものがありました。

周りのみんなの深い愛情のもと、頑張り屋さんで優しい思いやりにあふれた子ども達に育ってくれました。小学校、中学校、大人になってもきっと輝き続けてくれることと思います。これからも保護者の皆様、病院関係の皆様と連携を取りながら、より良い保育所をめざしていきたいと思っております。





お知らせ

出雲キャンパス学童保育『キッズクラブ太陽』 学童保育施設で「英語」や「習字」の受講ができます！

ワークライフバランス支援室 室長 たなか まなみ 田中 真美

学童保育施設「キッズクラブ太陽」は、毎日、夕方小学校を終えた子供たちの元気なたくさんの笑顔でとても賑やかとなります。

キッズクラブ太陽の売りでもあるスタッフによる学校の宿題サポートは、とても好評を得ています。さらに学校の宿題以外にも週1回ずつ「英語」と「習字」の楽しく有意義なオプションを受講することができ、幅広い活動が行える学童塾となっています!!

これからも利用環境の一層の充実に繋げていきたいと思えます。

英語

(火曜日)16:00~



講師 岩田 桂子 先生

高校教諭を経て、現在はフリーの英語講師として活躍中。「温かく、規律のある」雰囲気の中で「楽しく、実用的な」レッスンを目指します。

楽しい
雰囲気の
レッスン!

習字

(水曜日)16:00~



講師 昌子 ゆうこ 先生

島根県書道教育連盟師範。出雲市を中心に、指導・書展への出展等、幅広く活躍中です。

集中して
練習します!



ご報告

病院長表彰を実施しました

総務課



3月17日病院長表彰の表彰式が行われました。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインでの実施となりました。

病院長表彰は、当院における経営改善や業務改善等運営面で特に顕著な貢献をした職員等を表彰するもので、職員の勤務意欲の向上と病院改革の推進を目的としたものです。具体的には、医療の質の向上、臨床研究の向上、人材の育成などへ貢献した者のほか、1年間の英語論文の執筆数の多い診療科が選ばれます。今年度は循環器内科が受賞しました。

個人受賞

- ・平原 典幸(外科学講座(消化器・総合外科学) 准教授): 臨床研究の向上ほか
- ・守田 美和(内分泌代謝内科 講師): 学生の指導
- ・板倉 千栄(看護部 看護師長): 人材の育成
- ・石飛 映美(感染制御部 副看護師長): 医療の安全管理
- ・常松 芳子(看護部 特定職員(医療系C)): 医療の質の向上
- ・嘉本 晶子(看護部 看護師長): 臨床研究の向上
- ・半井 弘樹(医療サービス課 課長補佐): 医療の安全管理
- ・永田 翔平(総務課 事務職員): 職員のQOLの向上

団体受賞

- ・佐野 千晶(地域医療支援学講座 教授)ほか8名: 医療の安全管理
- ・森田 栄伸(皮膚科学講座 教授)ほか4名: 治験の活性化
- ・精神科リエゾンチーム: 経営の改善、人材の育成、医療の質の向上
- ・馬庭 恭平(検査部 副臨床検査技師長)ほか3名: 医療の安全管理
- ・杉原 尚美(医療サービス課 特定職員(医療系B))ほか1名: 医療の安全管理
- ・集中治療部(看護部): 医療の質の向上
- ・C病棟7階(看護部): 医療の質の向上
- ・中村 誠(会計課 課長補佐)ほか3名: 経営の改善
- ・福間 彰(会計課 課長補佐)ほか3名: 経営の改善

【英語論文の執筆数の多い診療科】

循環器内科





ご報告

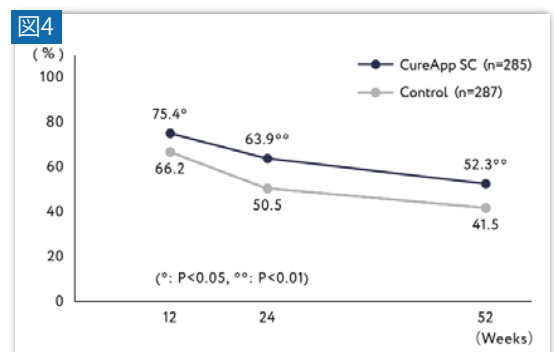
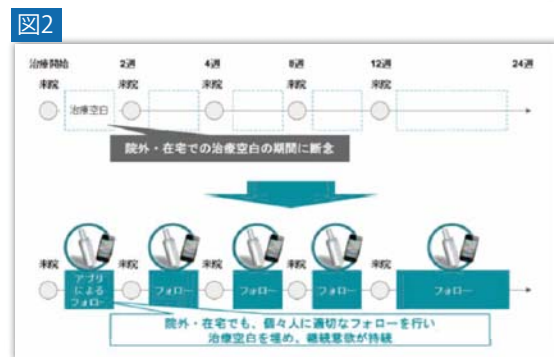
禁煙外来にアプリを導入します

呼吸器・化学療法内科 助教 はまくち めぐみ
濱口 愛

タバコには200種類以上の有害物質が含まれており、それらの物質を吸い込むことで喫煙者自身の余命を縮めるだけでなく、周囲にも受動喫煙のリスクを与えることになります。タバコがやめられないのは「ニコチン依存症」という状態に陥っていることが原因であり、このニコチン依存症を治療するのが禁煙外来です。現在、禁煙外来で保険適用として使用できる薬剤はパッチ製剤と錠剤の2種類があり、患者さんは12週のうち計5回外来に受診して、医師が処方した薬剤を使用しながら禁煙に取り組めます。現在の禁煙外来の問題点として、①来院と来院の間の空白期間を患者さん一人で乗り切らなければいけないこと、②12週で禁煙外来は保険適用上終了となりその後のフォローが乏しいこと、が挙げられます。

このような問題を解決するために、ニコチン依存症治療アプリ「CurrApp SC ニコチン依存症治療アプリおよびCOチェッカー[®]」が2020年12月1日から保険適用となりました(図1)。来院と来院の空白期間を、アプリが毎日フォローし適切なサポートを行います(図2)。また禁煙外来終了後も6か月まではアプリで継続したフォローを受けることができます。アプリには記録・チャット機能・学習ページなどの機能があり、毎日の記録をつけたり、タバコが吸いたくなった時にチャット機能を使ってモチベーションを高めたり、喫煙について知識を深めたりすることができます(図3)。CureApp SC[®]を用いると、使用しなかった群と比較して9から24週の継続禁煙率が有意に高くなり(63.9% vs 50.5%)、52週後の継続喫煙率も有意な差を認めました(図4)。

当科でも4月からアプリを導入して禁煙外来を行っています。ニコチン依存が疑われる患者さんがおられましたら、ご紹介いただけますと幸いです。



Masaki K, et al. npj Digital Medicine. 2020 12;3:1-7



ご報告

大動脈瘤に対する当院でのステントグラフト内挿術

心臓血管外科 医科医員 わだ ひろみ
和田 浩巳

日本も高齢社会から超高齢社会に入り大動脈瘤の治療も増加傾向にあります。

当院でも標準治療である、人工血管による大動脈瘤切除、ステントグラフト内挿に加えハイブリッド治療やオープンステントグラフトを用いた Less Invasive Quick open Stenting (LIQS) などの第3、第4の治療も行っております。

全国的には低侵襲治療の観点からステントグラフト内挿術の症例数が増加し、人工血管置換術よりも多い施設が多くなっています。

当院では大動脈瘤・大動脈解離診療ガイドラインに準拠し、人工血管置換とステントグラフト治療のメリット・デメリット、その他の治療選択肢の適応など、動脈瘤径、発生部位、形態、患者年齢、その他様々な社会的背景を考慮し適応を決定します。常に患者さん本位の治療を選択し、ステントグラフト治療が望ましい患者さんに対して治療を行っています。

CTにて大動脈瘤、大動脈解離を認めた際にはお気軽に島根大学医学部附属病院心臓血管外科まで一報いただけましたら幸いです。

問合せ先 心臓血管外科 TEL: 0853-20-2384





出雲大社



日御碕



TSK本社ビル



医学部附属病院 玄関ホール

世界緑内障週間 「ライトアップ in グリーン運動」 出雲大社、日御碕灯台などをライトアップしました

眼科学講座 黒目 奈穂子

2021年3月7日(日)～13日(土)の世界緑内障週間に、出雲大社、日御碕灯台、山陰中央テレビ(TSK)本社鉄塔、および島根大学医学部附属病院玄関ホール、山陰両県の多数クリニックを緑内障のシンボルカラーであるグリーンにライトアップしました。

この運動は、日本の視覚障害の原因疾患の第1位である緑内障について、認知・理解と緑内障の発見のための受診の重要性を一般の方に広く知っていただくための啓発活動です。

出雲大社、日御碕灯台、TSK本社鉄塔はとてもきれいなグリーンに照らされ、昼間の光景とは違って、幻想的で素敵でした。そして今年も、山陰両県20箇所以上の病院、開業医の先生方の御協力をいただき、当講座から投光器を貸し出し、各医院を素敵にライトアップしていただきました。

この運動が緑内障の早期発見そして失明予防につながることを願って今後も続けていきたいと思っています。



まつい眼科クリニック (倉吉市)



みはら眼科皮膚科 (出雲市)



市岡眼科クリニック (松江市)



野田眼科医院 (松江市)

